

団体設立 10 周年を迎えました

エファジャパン年次報告書 2014

ご挨拶

昨年の2014年6月にエファジャパンの理事長に就任して最初の年度を無事終えることが出来ました。みなさまの温かいご支援に心よりお礼申し上げます。

昨年度は、私にとって、ふたつの大きな出来事がありました。ひとつは、8月にベトナムとカンボジアを訪問し、エファジャパンの支援事業を視察し、身近に感じることができたことです。ベトナム・ハイフォン市の障がい児教室、カンボジアのプレアビヒアでの寺子屋教室、これらの教室で出会った子ども達の生き生きとした動き、そして文字を学ぼうとする子ども達の真剣な眼差し。エファジャパンの活動の意義を改めて認識しました。



ふたつ目は、11月に開かれたエファジャパン設立10周年記念イベントです。ドキュメンタリー映画『世界の果ての通学路』を会員、パートナー、支援者のみなさまと共に鑑賞し、前理事長のイーデス・ハンソン顧問と貧困の中に生きる子どもの教育、子どもの権利の現状について語り合いました。危険と隣り合わせの厳しい自然環境の中を兄妹が2時間近くもかけて学校へ通い、身体障がいの兄を車椅子に載せて2人の弟が1時間近く押しながら学校へ通い、真剣に学ぶ子ども達を見て感動しました。子どもには、学ぼうとする芽がやどっていて、私たち大人は、その芽が噴き出てくる支援を行なうことだと。

2014年度の海外事業においては、多くの自治労各組織の温かいご支援の下、これまでの事業を継続しながら、ベトナムでの障がい児支援、奨学金の充実、カンボジアの寺子屋教室の一部整理と支援のさらなる充実、ラオスでのコミュニティ図書館や学校図書室のフォローアップと追加支援などを行ないました。

一方、エファジャパンの活動を支えていただく会員・パートナーの状況は、2014年度中に会員が281人から15人減、パートナーは個人98人から3人減、団体は72団体から8団体減と漸減しています。エファジャパンは、自治労各組織のご支援に加え、一人ひとりのより積極的なご参加の下で、2015年度の活動を発展させてまいりたいと考えます。貧しさ故に、教育の機会を奪われた子どもを一人でも多く支援していくために、みなさまのさらなるご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人エファジャパン
理事長 伊藤 道雄

目次

ご挨拶	2	カンボジア	8～9
2014年度活動ハイライト	3	その他	10
エファジャパンの組織	3	エファグッズ	10
ベトナム	4～5	国内事業	11～12
ラオス	6～7	会計資料	13～19

2014 年度活動ハイライト

・・・国内事業・・・

・エファジャパン設立 10 周年記念イベント開催

2014 年 10 月に迎えた団体設立 10 周年を記念したイベントを実施。第一部は映画『世界の果ての通学路』の上映、第二部は理事長伊藤道雄と顧問イーデス・ハンソンが対談。

・・・海外事業・・・

・ベトナム ハイフォン市に新たに障がい児教室を設置

自治労岡山県本部の支援により、ハイフォン市の農村部にあるフンティエン村に障がい児教室を設置し、1 月から活動を開始。

・カンボジア SCADP の就学前教育事業を支援

学齢前の子ども達が大部分となっているカンダールの寺子屋教室を、自治労福岡県本部の支援により就学前教育教室に改編。

エファジャパンの組織

支援者

会 員

正会員…154 人
シニア会員…37 人
賛助会員個人…42 人
賛助会員団体…33 団体

総会

(正会員で構成)

- ・エファパートナー
- ・一般寄付者（個人）
- ・一般寄付者（団体）
- ・事業指定寄付者（個人・団体）
（ベトナム、ラオス、カンボジア、タイ、ようちえん募金、荒川さん募金、書き損じハガキ、他）
- ・ボランティア
（事務局ボランティア、デザインボランティア、企業ボランティア、他）

理事会

理事長	伊藤 道雄
副理事長	植本 眞砂子
理事	青木 真理子
理事	大石 芳野
理事	大島 芳雄
理事	川本 淳
理事	木下 究
理事	佐藤 千恵子
理事	高橋 睦子
理事	玉井 一匡
理事	千田 真
理事	中西 満
監事	山形 昌弘

顧問

イーデス・ハンソン

事務局

事務局長	大島 芳雄
国内事業	五十嵐 香織
広報	宮原 朝香
ベトナム駐在	崎川 勝志
カンボジア駐在	島村 昌浩

2015 年 3 月 31 日 時点

ベトナム *Viet Nam*

ベトナム概況

・支援が必要な背景

ハイフォン市の経済は順調な成長を続け貧困問題が解消されつつある一方で、未成年による虐待や麻薬、HIV 感染などの今日的な社会問題が顕在化しています。また、貧困問題の裏でこれまで置き去りにされていた障がい児支援のニーズが高まっています。

・支援の目標、目的

ハイフォン市が抱える新たな社会問題・支援のニーズに対応すべく、地域社会の啓発に努めながら、困難な状況にある子ども達や障がい児の教育を受ける権利、発達する権利の実現をめざします。

ハイフォン市障がい児支援

■ベトナムの障がい児事情

ベトナムでは近年、国民の貧困問題が改善してきたことから、これまであまり目を向けられてこなかった障がい児支援に政府が力を入れ始めてきました。しかし、障がい児を受け入れる施設や障がい児支援に関する専門知識、経験のある人材が絶対的に不足しています。

ハイフォン市にはおよそ 2,200 人の障がい児がおり、聾学校や盲学校、市営のリハビリテーションセンターがあることから、ベトナムの他の省（日本の行政単位で言う「県」）と比べると恵まれています。それでも、受け入れ人数の限界や交通機関の未発達のため、これらの学校やセンターに通えるのは一部の障がい児です。終日自宅に居て、特に何をするともなく過ごす障がい児も少なくありません。

■障がい児教室支援

ハイフォン市には、地域で活動する機会が限られている障がい児が教育を受けたり、文化活動をしったりする場を提供するため、各地域に 19 の障がい児教室（1 教室当たり 20 人～40 人）が設置されています。これらの障がい児教室には学校に通っている軽度の障がい児も参加していれば、学校に通うことのできない中度の障がい児もおり、障がいの種類も様々です。（重度の障がい児は移動手段が限られるためあまり外出できません。）しかし、障がい児教室の実施体制は貧弱で、地元の人民委員会（日本で言う村役場）や文化会館の一室を借りて、障がい児の療育に関する知識・経験のない人民委員会の職員などが、手探りで簡単な識字学習や歌、お絵描き、玩具を使った活動等を行なっています。活動ペースも週 1 回～月 1 回と各教室で異なっており、政府からの財政支援はほとんどありません。

これらの運営・活動状況を改善するため、エファジャパンは連合愛のカンパの助成金を受け、ドンクオックビン地区、ティエンラン町、タンフォン村にある障がい児教室を対象に、活動用具の寄贈や、子ども関連の経験豊富な教師を活動に招くなどしました。その結果、各障が



障がい児教室の様子

い児教室では活動の回数や種類、活動する障がい児の人数が増えています。また各障がい児教室で、地域の人々を対象とした障がい児啓発のための講習や、保護者対象の家庭で実践できるリハビリケアに関する講習を開催しました。

さらに 2015 年 1 月からは、自治労岡山県本部の支援でハイフォン市農村部にあるフンティエン村人民委員会に新たな障がい児教室を立ち上げ、家族以外の人と接したり、頭や体を使うゲームや遊びを通して、村の障がい児達が健やかに成長できるよう活動を支援しています。



地域住民対象の啓発講習

児童ソーシャルワークセンター支援

児童ソーシャルワークセンターは、ハイフォン市全域の子ども達の貧困や虐待、HIV、麻薬、障がいなどの社会福祉問題に取り組んでいるハイフォン市政府の機関です。エファジャパンは、2013年12月から当センターと協力し活動を行なっています。2014年度は、犯罪を犯したハイフォン市の青少年達が生活しながら勉強するニンビン第二教養学校で退所後の生活設計作成、ハイフォン市の3つの町・村（ギアサー町、ドンケー町、タンズオン村）で小中高生に子どもの権利・保護に関する

講習、及びこれら同地域の行政職員へのソーシャルワーク活動に関するワークショップの実施を支援しました。また、これら上記3つの町・村で支援を必要とする子ども達を対象とするプログラムを立ち上げました。このプログラムの一環として、地域の困難な状況にある子ども達を対象とした子どもの権利に関するワークショップを開催しました。今後、これらの子ども達を対象としたカウンセリングや各種ワークショップの実施を支援していく予定です。

アジア子どもの家奨学金基金



奨学金贈呈式

1999年より自治労栃木県本部が500万円をハイフォン市に委託し、その利子を運用して奨学金事業を開始しました。さらに2013年度には自治労栃木県本部の支援で、本奨学金基金の預金額を増額しました。本奨学金基金はハイフォン市児童保護基金が管理し、経済的に貧しいながら、優秀な成績を収めた子ども達に支給されています。2014年度は計70名の子ども達に1人当たり70万ドン（約3,900円）の奨学金と10万ドン（約550円）分のギフトを支給しました。

書き損じハガキでの支援

みなさまからご寄付いただいた書き損じハガキによる支援で、ハイフォン市ティエンラン郡の障がい児10名に車椅子の寄贈と、ミンティン人道職業訓練株式会社（民間の障がい者作業所）にミシン4台の寄贈を行いました。ティエンラン郡はハイフォン市の中でも貧しい地域で、歩行に問題のある子どもがいても、経済的に苦しく車椅子を購入する余裕のない家庭もあることから、これらの子ども達に車椅子を寄贈しました。ミンティン人道職業訓練株式会社は、ハイフォン市で作業所を運営し、障がい児・者達が民芸品を製作することで収入を得て生活の糧としています。しかし、政府からの補助もなく、経営状況は厳しく新たな設備投資ができていません。ミシンを使った服飾品の製作を増やしたいというこ

とから、ミシン4台を寄贈しました。



車椅子贈呈の様子

ベトナム事業の今後

各障がい児教室の運営体制が脆弱なので、より効果的で持続性のある活動を行なうためにも、運営体制を改善していかなければなりません。児童ソーシャルワークセンターの活動が町や村単位から広がりを見せ、より広範囲な地域全体の困難な状況にある子ども達が恩恵を受けられるよう、活動の仕方を工夫していく必要があります。

ラオス *Laos*

ラオス概況

・支援が必要な背景

ラオスは図書館・図書室及び図書の数が絶対的に不足しているうえ、図書館・図書室の統括・発展に寄与する総合的な全国組織の活動が停滞しています。また、子ども文化センターは、職員の人件費と光熱費のみがラオス政府から支払われているだけで、活発な活動が行なわれるためには、外部からの継続的な支援が必要です。

・支援の目標、目的

本の寄贈やモニタリングを継続して、各図書館・図書室のサービスの向上に努めるとともに、ラオス図書館協会がラオス全体の図書サービスに寄与できる全国組織になることをめざします。エファジャパンがこれまで支援してきた子ども文化センターを適宜フォローアップし、活発な活動を継続できるようにします。

図書館事業

■ラオス図書(館)事情

ラオスには各県に1館しか公共図書館がないうえ、小中学校の1割程度にしか図書館・図書室が設置されていません。また、都市部以外には本を売っている店もなく、多くの子ども達は教科書以外の本を読む機会がありません。さらに、日本の図書館協会にあたるラオス図書館協会の活動体制が脆弱であることが、ラオス全体で効率的でバランスの取れた図書サービスの発展を難しくしています。

■ヴィエンチャン市立図書館・多目的ホール支援

自治労中央本部及び3県本部(愛知・東京・北海道)の支援で、2006年12月に開館したヴィエンチャン市立図書館は開館から8年が経ちました。この間、図書館の正規職員が開館時の4名から現在の9名に増えるなど、ヴィエンチャン市政府も当図書館の運営により多くの努力を払うようになっていきます。また自治労東海地区連絡協議会には、2009年3月から継続して備品の購入や職員の超過勤務代(平日16時～18時)を含む図書館運営費の一部を支援いただいています。図書館の開館時間は、月曜日～金曜日の9時～18時で、2014年の利用者数はのべ42,414人、貸出人数はのべ1,191人、貸出冊数はのべ3,208冊でした。

■コミュニティ図書館支援

個人の方の支援で設置された小中学校の図書室21カ所をモニタリングし、新しい本を購入・寄贈しました。また、静岡県中東遠総合医療センター職員労働組合の支援により、自治労静岡県本部の支援で建設されたノンセンチャン村コミュニティ図書館には毎月備品や文房具の寄贈を、自治労新潟県本部の継続支援により同県本部の支援で建設されたタトーン村コミュニティ図書館には本や備品、文房具の寄贈の他、近隣小学校への出張読書推進活動などを行ないました。



タトーン村コミュニティ図書館

■ラオス図書館協会支援

ラオス図書館協会は2007年に設立され、ラオスの図書館界で著名なメンバーにより構成されています。しかし、政府からの財政支援はほとんどなく、実際は図書館協会としての機能を果たしていませんでした。そこで、エファジャパンは2011年10月から、ラオス図書館協会の活動支援を行なっています。2014年度は協会機関誌の発行、ヴィエンチャン県やサワンナケート県での図書館調査、シンガポールやミャンマーでの国際会議参加のための旅費、ラオス国立大学図書館学コースへの参考書の寄贈などを支援しました。これらの活動を通し



機関誌

て、国内外でラオス図書館協会の認知度は高まり、ラオスの図書館界全体に影響を及ぼす全国組織に徐々に変わりつつあります。

地方子ども文化センター支援事業

■子ども文化センター（CCC）概況

子ども文化センター（CCC）は日本の児童館のような施設で、放課後や休日に子ども達が集まり、ジュニアリーダー（年少の子ども達をリードし、先生の補佐をする年長の子ども達）が率先しながら文化活動や遊戯などを行なっています。CCCは自治労の支援により、ラオスの「アジア子どもの家」として1996年に初めて首都ヴィエンチャン市に設置されました。その後、CCCの活動はラオス政府にも高く評価され、政府の主導で、現在ではラオスにある17の全ての県にCCCが設置されています。しかし、設置後の政府からの財政支援は非常に限られており、活動が停滞しているCCCも少なくありません。

■セコン県 CCC

エファジャパンは2009年11月～2010年11月の間日本政府外務省のNGO連携無償資金を得て、それまでラオスの各県で唯一CCCが設置されてなかったセコン県で、CCCの設立・運営を支援しました。しかし、支援終了から4年が経過し、当時寄贈した活動用具を使い切ったり、研修を受けた担当職員とジュニアリーダーが人事異動や学校卒業のためCCCの活動から離れていったりしたため、以前ほど活動が活発に実施され

なくなっていました。そこで、2014年8月に2週間ほどエファジャパンの職員を現地に派遣し、活動のフォローアップを行ないました。

フォローアップでは、活動用具の寄贈に加え、外部からCCCの活動に関して経験豊富な講師を呼んでCCC担当職員5名とジュニアリーダー47名に対し、文化活動やゲーム、読書推進活動の仕方、子どもの権利などについての研修を実施しました。また研修後は、今後の活動計画や活動資金の集め方についてCCC担当職員と話し合いました。



CCCの活動の様子

書き損じハガキでの支援・その他

■書き損じハガキでの支援

エファジャパンは個人の方の支援により、ラオスの小中学校の職員室や使われていない教室に本棚と400冊～500冊の本を寄贈したコミュニティ図書室を42カ所に設置しています。小規模な図書室ですが、教科書以外の本に

寄贈本と記念撮影



触れる機会があまりない子ども達にとってはとても貴重です。しかし、蔵書数が十分でないため、興味のある本を読み切ってしまう物足りなく感じている子ども達が少なくありません。そこで、書き損じはがきの寄付による資金で、これらの各図書室に20冊ずつ新たな本を購入・寄贈しました。

■その他の活動

ラオス北東部の山岳地域に位置するファパン県で冬の寒さを凌ぐ十分な衣類のない子ども達に、個人の方数名のご厚意により日本から送って頂いた段ボール13箱分の古着を支給しました。

ラオス事業の今後

ラオスの図書館・図書室及びCCCは、未だ外部からの継続的な支援なしでは運営や活動が停滞してしまいます。継続的なフォローアップを続けながら、自立して健全な運営や活発な活動がなされるよう道筋を付けていく必要があります。

カンボジア *Cambodia*

カンボジア概況

・支援が必要な背景

波尔・ポト政権の恐怖政治によって、社会システムが崩壊したこの国は、人材の養成が急務です。しかしながら、偏った経済成長により大都会と地方、また住民間の貧富の格差が広がり、都会のスラムや僻地では教育を受けることができない子ども達が未だに存在します。

・支援の目標、目的

教育を受ける権利は、全ての子どもに保障されなければなりません。首都プノンペンから僻地へ支援の重点を移し、より多くの子ども達に教育の機会を提供すると同時に、保護を必要とする子ども達の生活改善をめざします。

ノンフォーマル教育（寺子屋教室）運営支援

■ SCADP（スカップ）

カンボジアの市民団体 SCADP（Street Children Assistance and Development Programme: ストリートチルドレンの支援と育成事業）は、1992年に創設者のイム・ソカリィ女史がプノンペンでひとりのストリートチルドレンと出会い、その子にノートと鉛筆をあげて読み書きを教え始めたことから活動が始まりました。その後、1998年にカンボジア内務省から市民団体として正式な認可を受け、現在では教育事業を中心に首都プノンペンと地方7県で活動しています。

エファジャパンは、2007年度から SCADP をパートナーとして、カンボジアで事業を展開しています。

■ 寺子屋教室

10月の新学期から、SCADPが運営するプノンペン市内のスラム再定住地センソク（登録児童59人）と隣県カンダールの村1カ所（登録児童107人）の寺子屋教室で、小学校に通っていない子ども達に学用品を支給し、教員の給与を支払い、教室運営を支援しています。

年度の途中ながら、学齢前の子どもが大部分を占めるようになったカンダール県の寺子屋は、自治労福岡県本部の支援でカリキュラムを準備、教材をそろえ、教員研修を行ない、就学前教室に移行しました。



就学前教育用の教材を支給（カンダール）

首都から僻地へ教育支援の重点を移すため、市内の2教室を閉鎖しましたが、小学校に編入した生徒や保護者の聞き取り調査を行ない、2カ所のスラムに職員を定期的に派遣して学習指導を継続しています。

■ 国境地帯の子どもの教育支援

世界遺産である寺院遺跡周辺を巡りタイ軍とカンボジア軍の武力衝突が起こったカンボジア北部ブレアビシア県の国境地帯では、緊張状態が緩和され、訪問する観光客も増えています。

内戦から近年の国境紛争に至る間に多くの兵士が家族と共に動員され、また貧困家庭の移住が奨励されたため、未開発の森の中に多くの居住地ができました。そこで生活する子ども達の多くは、近くに小学校が無い、教員が赴任しない等の理由で、正規の初等教育を受けることができないでいます。SCADPは、この国境地帯14カ所で寺子屋教室を運営しています。登録児童数は950人です。



学用品の配布

2014年度には、自治労兵庫県本部と九州地区連絡協議会の支援で、登録児童全員にノートや鉛筆などの学用品を配布しました。

わずかな報酬で教えている教員の能力向上と待遇改善が今後の重要課題です。

SCADP 支援

■ SCADP 児童保護施設

SCADP のプノンペン事務所とプレアビヒア県のセンターには、様々な理由で保護者と生活できない子どもが合計 80 人余り生活しています。子ども達は、そこで共同生活を送りながら教育を受けています。

自治労奈良県本部と同熊本県本部の支援で、石鹸・洗剤・歯ブラシ・歯磨きなどの日用品や常備薬、扇風機、コンピュータなどを支給しました。

■ SCADP 就学前教育

SCADP のプノンペン事務所では、近隣の就学前児童を対象に教育の機会を提供していました。2015 年 1 月には海外の団体からの資金でプノンペン事務所とプレアビヒア県のセンターで、机や椅子、遊具や教材をそろえ就学前教室を開設しました。エファジャパンは、人材の育成やカリキュラムの準備に協力してきました。

■ 書き損じハガキでの支援

2014 年度は、プノンペンとプレアビヒア県の保護施設に米を寄贈しました。さらにプレアビヒア県の保護施設には、楽しみながら学べる知育玩具を寄贈しました。



カンボジア子どもの家奨学金事業

■ 子どもの家概況

1997 年、自治労の支援によって、首都プノンペンに国立幼稚園教員養成学校・付属幼稚園として設立されました。養成学校は 2 年制で、1 年生 260 人、2 年生 200 人、合計 460 人が学んでいます。カンボジア唯一の幼稚園教員養成の場であり、国全体の幼児教育と保育に大きく貢献しています。

■ 奨学金事業

7 月まで、地方出身の貧しい訓練生 25 人に月 25 ドルの奨学金を 10 カ月間支給し、無事卒業しました。10 月の新学期からも新たに同様に支給しています。

■ 保育士による技術指導ボランティア

公立保育園の元保育士、荒川智子氏は国立幼稚園教員養成学校で 2001 年から毎年保育指導のボランティアをしています。

2014 年度は 4 月 25 日から 5 月 7 日まで、1 年生には例年通りパネルシアターを、2 年生には子どもの関心をひきつける道具として軍手を使った指人形の制作を指導しました。荒川氏の指導は養成学校の正規のカリキュラムに組み込まれており、1 日 6 時間の授業を担っています。この活動を応援するため、エファジャパンは助成金を支給しました。



カンボジア事業の今後

寺子屋教室と児童保護施設に関しては、「中央から地方へ」の事業方針に基づき、より多くの子ども達の教育を受ける権利と保護される権利を保障するため、首都プノンペンから国境地帯へ支援の重点を移します。

国立幼稚園教員養成学校訓練生への奨学金は、就学前教育の地方への波及効果が大きいいため継続します。同時に荒川智子保育士の活動も、養成学校での教育内容向上に貢献しているため助成を続けます。

その他

タイ パラミ・ラーニングセンター支援

パラミ・ラーニングセンターは、ミャンマー労働組合連盟（FTUM）が1999年にタイのターク県メーソットに設立した、ミャンマーからの移住労働者の子ども達のための教育施設で、約660人が学んでいます。

この施設は、子ども達が犯罪に巻き込まれることや、児童労働に従事することから守り、受入国であるタイの文化を理解することを目的にしています。

現在では、初等教育課程がタイとミャンマーの政府から正規の課程と認定され、修了すればタイやミャンマー

の中学校に進学できるようになりました。

タイとミャンマーとの間で人や物の交流は急激に増加しています。FTUMはミャンマー側でも教育施設の設立を計画していますが、パラミへの入学希望者も増加し、教室の不足や教員の確保が問題になっていました。

これらの支援の要請を受け、自治労中央本部が教員の給与の一部を支援し、エファジャパンは、現場を訪問し支出状況のモニタリングを実施しました。

緊急支援

2014年7月7日から8月26日までの50日間にわたるパレスチナ・ガザ地区に対するイスラエルの軍事行動により、パレスチナ側は市民1,483人を含む2,205人が殺害されました。日本国際ボランティアセンター

（JVC）は、現地パートナー団体からの要請で医薬品などの緊急支援を開始、エファジャパンはJVCへ50万円の資金を援助しました。

エファグッズ

エファジャパンでは、ベトナム、ラオス、カンボジアで下記の団体等が製作・販売しているチャリティー雑貨を買取り、エファグッズとして販売しています。

◆フレンズ・インターナショナル（ラオス）

貧困が原因で子どもが路上に出るのを防ぐため、貧困家庭の親に職業訓練を実施し、製作された雑貨を販売して家計収入の向上に役立てています。

◆ワットタン・アーティザン・カンボジア

地雷とポリオによる障がい者技術訓練所の卒業生により組織された、障がいを持つ労働者による協同組合です。職業訓練と雇用を通して障がいを持つ人々の生活向上を目的としています。

◆クラバンハウス（カンボジア）

自らも障がいを持つタナン・ホックさんという女性が

設立しました。製品作りに関わる織り手や縫製の職人の半数以上は地雷やポリオを原因とする障がい者です。

◆ホンゴックセンター（ベトナム）

主に障がい者の社会参加と収入向上を目的として、職業訓練および製作した手工芸品の販売を行なっています。

◆ハイフォン市聾学校（ベトナム）

生徒の職業訓練の一環としてエファジャパンからの一括注文による布袋（エコバッグ）を製作しています。

◆ベトナム子どもの家

職業訓練の一環としてエコバッグなどを製作していました。ベトナム子どもの家が組織改編により子どもの保護を行なわなくなったため現在は生産終了しており、在庫限りの販売となります。

【収支】

収入	エファグッズ	183,370	支出	仕入れ、輸送経費、雑費等	3,880,047
	自治労布袋	3,036,600			
収入合計		3,219,970	支出合計		3,880,047
		利益			-660,077

国内事業

エファジャパン設立 10 周年記念イベント

映画『世界の果ての通学路』上映会&対談（東京）

エファジャパン設立 10 周年を記念し、11 月 2 日に東京ウィメンズプラザ（東京都渋谷区）で記念イベントを開催しました。第一部では、映画『世界の果ての通学路』を上映。続いて第二部では、イーデス・ハンソン顧問と伊藤道雄理事長による対談を行ないました。会員をはじめ約 120 名の方にご来場いただき、学生など若い世代にも多くご参加いただきました。

『世界の果ての通学路』は、遠く、時には危険な道のりを何時間もかけて学校に通う、世界各国の子ども達の姿を追ったドキュメンタリー。上映後の対談では、

映画の内容を踏まえ、世界の子ども達の現状や教育の意義などについて、エファジャパンの活動や、それぞれの経験を交えて語り合いました。



上映会
&
対談

エファジャパン設立 10 周年記念イベント 世界を舞台に
世界の果ての通学路
ON THE WAY TO SCHOOL

2014. 11. 2. SUN

日 時：2014 年 11 月 2 日（日）13:30（開場 13:00）～ 16:15（予定）
第 1 部：上映会『世界の果ての通学路』
第 2 部：対談 イーデス・ハンソン × 伊藤道雄
会 場：東京ウィメンズプラザ ホール
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-47
TEL: 03-5561-7711
※当日は事前予約が必要です。

■参加費
・前売券 800 円、学生・高校生・中学生 500 円
・当日 1000 円、学生 600 円、中学生・高校生 500 円
※前売券は当日券より 100 円引きです。

■お問い合わせ
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-47
TEL: 03-5561-7711 FAX: 03-5561-7712 Email: info@efajapan.org

■当日の注意事項
・当日の受付は、13:00～16:00 までです。
・当日の受付は、13:00～16:00 までです。
・当日の受付は、13:00～16:00 までです。

対談の様子



当日は 9 名の方にボランティアスタッフとしてお手伝いいただき、スムーズにイベント運営を行なうことができました。

＜来場者の感想＞

- ・映画に登場する子どもたちの表情に、学ぶということは明日への希望なんだと改めて感じた。
- ・“教育とは何か”を改めて考える機会になり、自分の立場で今後何ができるか振り返ることが出来た。
- ・対談では、途上国だけでなく日本の教育に潜む問題にも目を向けていて、とても刺激になった。
- ・私たち自身が映画に登場する子ども達から学ばされることが沢山あると感じた。

集会・学習会

■子どもの権利に関する学習会 (2/25・銚子)

昨年度に引き続き、日本国内の子どもの権利を守る啓発活動の一環として、特定非営利活動法人子どもすこやかサポートネットと協働で学習会を実施しました。今年度は、銚子市役所職員労働組合にご協力いただき、同組合の保育士、幼稚園教諭を対象に、「子どもの権利委員会による総括所見の読み解き」をテーマとする学習会を

行ない、約 50 名の方にご参加いただきました。

■その他イベント・集会

- ・NTT 労働組合児童労働撲滅キャンペーン (6/15・横浜)
- ・自治労第 87 回定期大会 (8/28～29・大分) 他

ボランティア

毎月 1 回最終木曜日のエファボラ（エファジャパンボランティアデー）では、エファグッズや布袋の仕分け梱包、ポスターその他の発送準備、書き損じハガキのカウントなどを、ボランティアのみなさんに作業していただ

きました。また、デザインボランティアの方には書き損じハガキや古本リサイクル募金のポスターのほか、自治労布袋（2014 年度入荷分）等のデザインでご協力いただきました。

国内事業

書き損じハガキ・古本リサイクル募金

■書き損じハガキ収集

2014年度（4月～3月）の合計は839,369円（切手交換後の額面）、その他テレホンカードやクオカードなどプリペイドカードの寄付も多数いただきました。また、未使用切手のご寄付は書き損じハガキを交換する際の手数料に使わせていただきました。たくさんのご協力、誠にありがとうございました。

2014年度には、2013年度中にご寄付いただいたハガキの資金で支援を実施しました。ベトナムの福祉作業所へのミシン寄贈、ラオスの学校・コミュニティ図書室への蔵書寄贈、カンボジア児童保護施設への米寄贈など、3カ国5件となりました。詳しくは各国の事業報告をご覧ください。

■古本リサイクル募金-エファジャパンきしゃぼん-

古書買取店の嵯峨野株式会社との提携により、古本を

嵯峨野株式会社に送ると買取金がそのままエファジャパンへの寄付となる古本リサイクル募金を実施しています。2014年度の募金は合計73,801円になりました。ご協力ありがとうございました。エファジャパンの自己資金として支援活動に使わせていただきます。



広報・その他

■広報誌『えんぱわ』（季刊：第33号～第36号）

エファジャパン会員他支援者のみなさま、関係者、自治労各組織へ送付するほか、全国のボランティアセンター、自治体国際化協会へ一般配布をお願いしています。

【特集】

- ・第33号「障がい児福祉サービスへの第一歩～ハイフオン市職員招聘研修」（ベトナム）
- ・第34号「本を通じた新しい世界への扉 ラオス コミュニティ図書館」
- ・第35号「スラム内寺子屋教室の果たした役割と今後の支援」（カンボジア）
- ・第36号「団体設立10周年記念号」対談 イーデス・ハンソン×伊藤道雄」

■エファ通信（メールマガジン）

原則として月1回発行しています。バックナンバーはエファジャパンHPにも掲載しています。また、登録・解除もHPから手続き可能です。

■Webページ

エファジャパン公式HP、公式Facebookページ、公式Youtubeページを公開しています。その他、Yahoo! ネット募金、gooddoなど募金機能があるサイトにも

参加しています（イーココロ！は終了しました）。

■自治労通信広告掲載

自治労中央本部のご協力により、年に数回「自治労通信」に広告を掲載していただいています。2014年度は7・8月号で書き損じハガキ募集、11・12月号で古本リサイクル募金、3・4月号で年賀版書き損じハガキ募集の広告を掲載していただきました。広告デザインはデザインボランティアの方による制作です。

■自治労プレスリリース

月に1回程度、エファジャパンの最近の活動の一つを取り上げプレスリリースとして自治労各県本部へ配信しています。配信した内容は機関誌やWebサイトへの転載も大歓迎です。

■企業等との連携

株式会社ハイム化粧品様に「スマイルご縁（5円）活動」でご協力いただいています。ハイム化粧品の「白い石けん」と「はみがきホワイト」の売上1個につき5円がエファジャパンに寄付される取組みです。2014年度は48,000円のご寄付をいただきました。「スマイルご縁活動」は今年度で終了しました。

会計資料

2014 年度決算

貸 借 対 照 表

特定非営利活動法人エフアジヤパン
全事業所

[税込] (単位: 円)
2015年 3月31日 現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		未 払 金	319,686
現 金	161,235	前 受 金	56,000
普通 預金	10,439,613	預 り 金	143,387
郵便振替口座	13,770,266	未払法人税等	70,000
定期 預金	4,090,000	流動負債 計	589,073
現金・預金 計	28,461,114	【固定負債】	
(売上債権)		退職給付引当金	4,085,400
未 収 金	334,637	固定負債 計	4,085,400
売上債権 計	334,637	負債の部合計	4,674,473
(棚卸資産)		正 味 財 産 の 部	
棚卸 資産	169,034	【正味財産】	
棚卸資産 計	169,034	前期繰越正味財産額	30,823,849
(その他流動資産)		当期正味財産増減額	△ 2,820,006
前払 費用	417,072	正味財産 計	28,003,843
仮 払 金	174,079	正味財産の部合計	28,003,843
前払金	1,682,380		
その他流動資産 計	2,273,531		
流動資産合計	31,238,316		
【固定資産】			
(投資その他の資産)			
敷 金	1,440,000		
投資その他の資産 計	1,440,000		
固定資産合計	1,440,000		
資産の部合計	32,678,316	負債・正味財産の部合計	32,678,316

活動計算書

特定非営利活動法人エファジャパン
全事業所

[税込] (単位: 円)

自 2014年 4月 1日 至 2015年 3月31日

【経常収益】		
【受取会費】		
正会員受取会費	1,836,000	
シニア会員受取会費	210,000	
賛助会員受取会費	320,000	
団体賛助会員受取会費	1,900,000	
【受取寄付金】		
受取寄付金	36,828,343	
【受取助成金等】		
受取助成金	1,100,000	
【事業収益】		
エファグッズ・ベトナム	41,290	
エファグッズ・カンボジア	80,380	
エファグッズ・ラオス	61,700	
ベトナム布袋	3,036,600	
イベント収入	135,055	
【その他収益】		
受取 利息	5,472	
雑収入	31,663	
為替 差益	345,949	
経常収益 計		45,932,452
【経常費用】		
【事業費】		
(人件費)		
給料 手当(事業)	11,153,924	
法定福利費(事業)	77,556	
福利厚生費(事業)	50,000	
人件費計	11,281,480	
(その他経費)		
売上 原価	3,709,280	
プロジェクト費(事業)	9,801,619	
業務委託費(事業)	554,949	
広報費(事業)	603,986	
印刷製本費(事業)	217,629	
会 議 費(事業)	70,241	
旅費交通費(事業)	3,298,901	
翻訳通訳費(事業)	21,146	
車 両 費(事業)	131,135	
通信運搬費(事業)	309,773	
消耗品 費(事業)	167,010	
修 繕 費(事業)	1,252	
地代 家賃(事業)	350,183	
保 険 料(事業)	33,482	
諸 会 費(事業)	111,005	
交際費(事業)	52,734	
支払手数料(事業)	101,448	
為替 差損(事業)	0	
雑 費(事業)	52,990	
その他経費計	19,588,763	
収益事業費	611,497	
事業費 計		31,481,740
【管理費】		
(人件費)		
給料 手当	6,948,799	
退職給付費用	577,700	
旅費交通費	260,190	
法定福利費	2,581,282	
福利厚生費	144,774	
人件費計	10,512,745	

活動計算書

特定非営利活動法人エフアジヤパン
全事業所

[税込] (単位: 円)

自 2014年 4月 1日 至 2015年 3月31日

(その他経費)		
印刷製本費	158,324	
会 議 費	136,974	
旅費交通費	316,585	
通信運搬費	378,354	
消耗品費	475,105	
水道光熱費	406,480	
地代 家賃	3,232,800	
広告宣伝費	465,911	
理事会運営費	191,948	
新聞図書費	3,659	
業務委託費	632,160	
リース 料	55,351	
租税 公課	2,550	
支払手数料	231,772	
その他経費計	6,687,973	
管理費 計		17,200,718
経常費用 計		48,682,458
当期経常増減額		△ 2,750,006
【経常外収益】		
経常外収益 計		0
【経常外費用】		
経常外費用 計		0
税引前当期正味財産増減額		△ 2,750,006
法人税、住民税及び事業税		70,000
経理区分振替額		0
当期正味財産増減額		△ 2,820,006
前期繰越正味財産額		30,823,849
次期繰越正味財産額		28,003,843

財務諸表の注記

特定非営利活動法人エファジャパン

2015年 3月31日 現在

【重要な会計方針】

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会）によっています。

(1). 棚卸資産の評価基準及び評価方法

棚卸資産の評価基準は原価基準により、評価方法は法定評価方法によっています。

(2). 引当金の計上基準

退職給付引当金:職員の退職給付に備える為、退職給与規定に基づく自己都合期末要支給額により計上しています。

【事業費の内訳】

事業費の区分は以下の通りです。

(単位:円)

科目	特定非営利活動に係る事業							合計
	定款第5条第1項に係る事業					定款第5条第2項に係る事業		
	ベトナム事業	カンボジア事業	ラオス事業	タイ事業	緊急支援	国内事業	収益事業	
(人件費)								
給料 手当(事業)	3,493,655	1,778,515	1,928,366	130,450		3,822,938		11,153,924
法定福利費(事業)	77,556							77,556
福利厚生費(事業)		50,000						50,000
人件費計	3,571,211	1,828,515	1,928,366	130,450	0	3,822,938	0	11,281,480
(その他経費)								
仕入高							3,709,280	3,709,280
プロジェクト費(事業)	2,808,542	4,093,660	1,973,197	400,000	500,000	26,220		9,801,619
業務委託費(事業)		342,891	212,058					554,949
広報費(事業)						603,986		603,986
印刷製本費(事業)		150	108,825			108,654		217,629
会議費(事業)	34,669	17,204	18,368					70,241
旅費交通費(事業)	853,427	1,711,020	662,474	21,440		50,540		3,298,901
翻訳通訳費(事業)	21,146							21,146
車両費(事業)			131,135					131,135
通信運搬費(事業)	58,997	85,991	145,129			19,656	114,730	424,503
消耗品費(事業)	27,895	38,852	100,263				13,565	180,575
修繕費(事業)		1,252						1,252
地代家賃(事業)	103,451	246,732						350,183
保険料(事業)			33,482					33,482
諸会費(事業)			1,005			110,000		111,005
交際費(事業)	30,243	10,064	12,427					52,734
支払手数料(事業)	18,714	43,998	18,278	19,000	216	1,242	29,728	131,176
販売促進費(事業)							12,744	12,744
イベント費(事業)							440,730	440,730
雑費(事業)	51,870		1,120					52,990
その他経費計	4,008,954	6,591,814	3,417,761	440,440	500,216	920,298	4,320,777	20,200,260
事業費計	7,580,165	8,420,329	5,346,127	570,890	500,216	4,743,236	4,320,777	31,481,740

財 産 目 録

特定非営利活動法人エファジャパン
全事業所

[税込] (単位：円)
2015年 3月31日 現在

《資産の部》

【流動資産】

(現金・預金)

現 金	161,235
一般会計	(96,385)
収益事業	(64,850)
普通 預金	10,439,613
中央労働金庫	(2,791,969)
三菱東京UFJ	(5,372,220)
ラオス外貨預金	(24,833)
ベトナム外貨預金	(1,252,724)
三菱東京UFJ (収益)	(997,867)
郵便振替口座	13,770,266
定期 預金	4,090,000
現金・預金 計	28,461,114

(売上債権)

未 収 金	334,637
売上債権 計	334,637

(棚卸資産)

棚卸 資産	169,034
棚卸資産 計	169,034

(その他流動資産)

前払 費用	417,072
仮 払 金	174,079
前払金	1,682,380
その他流動資産 計	2,273,531

流動資産合計

31,238,316

【固定資産】

(投資その他の資産)

敷 金	1,440,000
投資その他の資産 計	1,440,000

固定資産合計

1,440,000

資産の部 合計

32,678,316

《負債の部》

【流動負債】

未 払 金	319,686
前 受 金	56,000
預 り 金	143,387
雇用保険	(66,287)
源泉所得税	(77,100)
未払法人税等	70,000
流動負債 計	589,073

【固定負債】

退職給付引当金	4,085,400
---------	-----------

固定負債 計

4,085,400

負債の部 合計

4,674,473

正味財産

28,003,843

2015 年度予算

2015年4月1日から2016年3月31日まで

特定非営利活動法人 エファジャパン

(単位:円)

科 目	2014年度決算	予 算 額		備 考
収入の部				
会費			4,930,000	
正会員	1,836,000	2,040,000		¥12,000 × 170名
シニア会員	210,000	240,000		¥6,000 × 40名
賛助会員(個人)	320,000	400,000		¥10,000 × 40口
賛助会員(団体)	1,900,000	2,250,000		¥50,000 × 45口
寄付金			44,400,000	
パートナー(個人)	267,000	300,000		¥3,000 × 100口
パートナー(団体)	1,140,000	1,400,000		¥20,000 × 70口
ベトナム指定	1,216,100	500,000		
ラオス指定	574,400	5,800,000		
カンボジア指定	2,425,123	3,400,000		
タイ指定	400,000	0		
一般(無指定)	30,805,720	33,000,000		2015年度交付金など
助成金など			1,500,000	
助成金	1,100,000	1,500,000		連合愛のカンパなど
補助金	0	0		
事業収益			3,100,000	
エファグッズ	183,370	200,000		
ベトナム布袋	3,036,600	2,900,000		
イベント	135,055	0		
受取利息	5,472			
雑収入	31,663			
為替差益	345,949			
当期収入合計	45,932,452		53,930,000	

科 目	2014年度決算	予 算 額	
支出の部			
事業費			
海外事業			36,050,000
ベトナム	11,173,955	11,020,000	
ラオス	5,416,609	11,280,000	
カンボジア	8,465,337	13,150,000	
タイ	570,890	100,000	
緊急援助	500,216	500,000	
国内事業	5,354,733		5,540,000
事業費合計	31,481,740		41,590,000
管理費			
人件費			12,140,000
給料手当	6,948,799	7,460,000	
退職給付費用	577,700	990,000	
法定福利費	2,581,282	3,320,000	
福利厚生費	144,774	50,000	
旅費交通費	260,190	320,000	
その他経費			6,980,000
地代家賃	3,232,800	3,240,000	
水道光熱費	406,480	440,000	
旅費交通費	316,585	400,000	
通信運搬費	378,354	300,000	
消耗品費	475,105	300,000	
理事会運営費	191,948	200,000	
広報宣伝費	465,911	700,000	
印刷費	158,324	880,000	
リース料	55,351	43,000	
修繕費	0	10,000	
支払手数料	231,772	250,000	
租税公課	2,550	3,000	
研修費	0	20,000	
会議費	136,974	100,000	
新聞図書費	3,659	10,000	
業務委託費	632,160	0	
保険料	0	14,000	
雑費		0	
法人税等	70,000	70,000	
管理費合計	17,270,718		19,120,000
当期支出合計	48,752,458		60,710,000
当期収支差額	-2,820,006		-6,780,000

特定非営利活動法人エファジャパン 2014 年度年次報告書

発行 特定非営利活動法人エファジャパン 2015 年 7 月 29 日

〒102-0074 東京都千代田区九段南 3-2-2 九段宝生ビル 3 階

電話 03-3263-0337 FAX 03-3263-0338 E-mail info@efa-japan.org

ホームページ <http://www.efa-japan.org>



すべての人々に、^{ちから}力を。